

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 1月 11日

事業所名

きらめき北谷

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	安全面に配慮し、受け入れ枠を設けている。施設内は狭いが、工夫して使用している。	今後も、お子さまの様子に合わせて工夫しながらスペースを使っていく。
	2 職員の配置数は適切である	4	0	急なスタッフの欠員が出た場合などは利用児童数を調整するなどの対応をおこなっている。	安全面に配慮しつつ、遊びの保証を考えるとスタッフが足りないと感じる事もある。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	1	2	建物の構造上難しい事もあるが、視覚化などの工夫はできている。	集中したい子が取り組める環境を作りたい。階段が多い為バリアフリーになっていない。視覚的に発達特性にあっていない面はあるが良い面もあるのでどちらともいえない。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	0	毎日の環境整備を怠ることなくおこなっている。玩具や物が雑然としないように、適宜倉庫に片付けるなどの対応を行っている。	空間については、個室や静かに作業や検査を行える部屋がない為、今後も必要に応じて検討して行きたい。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1	業務改善に必要な事はその都度話し合いを行うことができる職員が意見を述べる事もできている。	シフトの調整を行い、可能な限り職員が全員出勤できる日を作り、カンファレンスを行って行きたい。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	1	2		新事業所により今回初めてのアンケート。業務の改善に繋げたい。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	2		新事業所により今回初めてのアンケート。業務の改善に繋げたい。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	4		新事業所により今回初めてのアンケート。業務の改善に繋げたい。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	DVD研修、研修報告等、TTLや外部報告会などの実施。	現場対応できるスタッフを配置するなど、シフトを調整しながら、職員がバランスよく研修に参加できるように工夫を行う。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	1	アセスメントについては日々行っているが、客観的な評価は不足している。	今後は、アセスメントシートなども活用していきたい。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	2		リタリコのアセスメントツールを使用予定。現在導入中。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	3	1	児発管を中心にガイドラインに沿った支援を行っている。	職員によってもバラつきがあり、家族支援や地域支援まで配慮できていない職員もいる。今後は児発管を中心に全体を巻き込みながら支援を行って行きたい。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0	ケース会議を持ち、様々な職種からの評価を取り入れるようにしている。	定期的にケース会議の時間を設けて、支援を充実させていく。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	週のリーダーを決めて全体を巻き込む形で行っている。	リーダーを中心に、児童に合った活動を設定しながら、チームで動けるように努めていく。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	毎週活動立案のリーダーを変更して、活動のバリエーションが広がる様に工夫している。	リーダーを中心に、月間の活動スケジュールを組み立てていく。
16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	0	個別と集団を分けて時間を設定している。	リーダーを中心に、児童に合った活動を設定しながら、チームで動けるように努めていく。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	17	6	0	児童の受け入れが無い時間帯に、短時間で確認を行っている。	リーダーを中心に、月間の活動スケジュールを組み立てていく。
	18	5	0	支援終了後30分の時間を設け振り返りを行っている。	時間によって振り返りが出来ていない場合もあるが、記録やミーティング等で共有している。
	19	6	0	日々の記録は抜けが無いように見返すようにしている。	記録に時間がかかってしまうことがあるため、時間を出来るだけかけず要点を絞って記録を残すようにする。
	20	6	0	モニタリング会議や中間評価などは定期的実施している。	今後も、モニタリング会議の時間を設けるように努力していく。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	6	0	担当者会議には、子どもの担当者が参加できるように配慮している。	今後も、メインに関わっている担当が会議に参加できるように調整していく。
	22	6	1		子どもが関わる相談員や関係機関により偏りはある。連携はまだ来ていない。
	23	1	0	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	現在医療ケアが必要な重症心身障害児の利用はない。
	24	0	1	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	現在医療ケアが必要な重症心身障害児の利用はない。
	25	4	2	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	必要に応じて実施。コロナの状況で情報共有が難しかった。
	26	4	1	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	現在の所、移行支援が必要な児童がいない。必要に応じて、学校での担当者会議にて情報共有を行っている。
	27	4	2	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	コロナの状況を見ながらではあるが、近隣の発達支援センター、事業所の見学に行き、連携を行っている。
	28	0	4	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	コロナの影響もあり保育所やこども園との交流などは現在おこなっていない。今後はコロナの状況を見ながら実施していきたい。
	29	1	3	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	自立支援協議会の委員になってはいるが、まだ部会が実施されていない。
	30	5	0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	LINEや計画書の確認などの機会を活用しながら、保護者との情報共有を行っている。
	31	2	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	必要に応じて親子で療育に参加してもらっている。
保護者への説明責任	32	4	0	契約書を交わす際に、出来るだけわかりやすく説明するようにしている。	今後も、保護者に分かりやすいように説明していく。
	33	5	0	個別支援計画書が作成できた際には、個別で保護者に支援計画の内容をお伝えするようにしている。	今後も、保護者に分かりやすいように説明していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	聞き取りできる状況の時は、できるだけ対応し状況を確認している。	今後も児発管を中心に保護者の悩みの聞き取りを行っていききたい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	4		現在は未実施。今後企画実施していききたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	保護者とはできるだけ密にコミュニケーションを取り、相談についても対応できるようにしている。	今後も、保護者からの希望がある際には、相談などの対応を行っていききたい。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	1	ブログにて実施している。また、LINEを活用して情報共有を行っている。	会報は発行していないが、LINEやブログを活用して、おさまの情報やイベントを今後も発信していききたい。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	鍵付きのキャビネットに個人情報ファイルを保管するようにしている。	今後も個人情報の取扱いに関しては、公表の前にご家族の意思を確認するようにして留意していききたい。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	おさまの特性に合わせて、有効なコミュニケーションの手段を使っている。	今後も、おさまの特性理解に努め、合理的配慮を行っていききたい。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	4		コロナ禍ということもあり、積極的に地域住民と交流する事が出来なかった。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	1	避難訓練は年2回企画実施している。	防犯マニュアルや感染症マニュアルは未作成。今後作成する予定。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	1		10月に避難訓練実施済み。今後も定期的に行なっていききたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	0	アセスメントシートでの確認に加えて、特別な配慮が必要な児童に関しては、保護者に確認してカルテに分かりやすく対処方法を記載するようにしている。	管理職や担当スタッフについては、児童の服薬状況や発作の有無を把握しているが、今後はケース会議などでも他スタッフに共有する必要がある。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2		現在、食事提供は行っていない。今後は、活動の中で食事をとる事も想定されるので、その際にはアレルギーの確認が必要になる。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	2		ヒヤリハットの報告は対応スタッフが作成し、事業所会議で全職員に共有するようにしている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	2		強度行動障害支援者養成研修や、虐待防止などの研修会に積極的に参加できるようにしている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	1	3		現在身体拘束が必要な児童がいない。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。